

大阪市の定期観光バスを考える

石田 一雄

【目的】

（背景①） 大阪市営定期観光バスの廃止

- ・大阪市営定期観光バスは、1936年（昭和11年）営業開始と70年の歴史があったが、2008年（平成20年）3月で廃止された。理由は「赤字」という財政面の問題であった。
- ・「観光客のニーズは多様化しており、観光バスを利用し観光名所を巡る形態は従来より減少してきている」とされた。

（背景②） 定期観光バス廃止の真の原因は？

- ・しかし、その傾向は大阪だけではない。観光地である京都や奈良でも同様の傾向があるのは事実だが、定期観光バスはいまだ健在である。
- ・大阪市の定期観光バスが不振におちいった原因は別にあるのではないか。市場のニーズに応える、もっと魅力的なコース、利便性を提供できれば、定期観光バスを復活できるのではないか。

【研究目的】

- ・ビギナー（初めて大阪を訪れる観光客）のニーズにも応える、他都市（京都、奈良など）と差別化された大阪らしい、大阪しかない定期観光バスのモデルコースの提案。

【内容】

- ① 営業当時の大阪市営定期観光バス、他都市の定期観光バスの定番コースを検討した。
- ② 大阪市の報告書「国際観光都市・大阪における観光バス整備に関する検討」【2013年（平成25年）2月28日】を検証した。
- ③ 現在運行中のバスを比較検討したところ、欠落している視点・ターゲットがあると判明。それは進展しつつある高齢化への対応であった。
- ④ 高齢者も利用しやすい、大阪らしい魅力的な定期観光バスコースを検討した。

【結果】

定期観光バスコースの提案 6コース

- ① 定番名所をめぐるループバス
- ② 水都大阪の川と橋をめぐる
- ③ 大阪の歴史をめぐる
- ④ レトロな「大大阪」をめぐる
- ⑤ なにわ庶民の市場・商店街をめぐるⅠ
- ⑥ なにわ庶民の市場・商店街をめぐるⅡ

① 営業当時の大阪市営定期観光バスの検討

～案内スポット・コースが魅力的だったか？

- ・案内スポットについては、人気度の違いはあるが、今も健在な観光スポットが多かった。ただし、スポットに偏りがあった。
- ・コース設定については、コース・コンセプトに欠けた。歴史・伝統か、最先端か、レトロか、定まらずごちゃまぜであった。



廃止された「にしじ号」

他都市の定期観光バスの定番コースの検討

- ・いずれも、昔からの定番スポットはほとんど変わっていない。
- ・東京で、六本木ヒルズ、お台場、東京スカイツリーが新しい。

② 大阪市の報告書「国際観光都市・大阪における観光バス整備に関する検討」

- ・市場の動向 ⇒個人旅行が多く、回遊性が高い
- ・利便性向上が必要 ⇒観光バスを求めるニーズの多さと、旅行形態の多様化
- ・他市の状況 ⇒国内・海外主要都市では、ほとんどの都市が観光バスを導入
- ・行政の戦略 ⇒世界の都市間競争に打ち勝つ都市魅力を創造・発信
⇒来阪外国人旅行者の大幅増加
- ・運行の方向性 ⇒外国人中心ー 若干高額な観光バスの運行
⇒日本人中心ー 低額なループバスの運行

ところが、

- ・具体的なシミュレーションでは、採算に乗らない。
- ・民間事業者単独での運行は大変厳しい
- ・行政による金銭的補填、公共投資は難しい。



大阪市の報告書

として、結論は、「当面、民間事業者の既存のツアー、ループバスの広報支援を行っていくことが得策」とされた。

③ 現在運航中のバスを比較検討したところ、欠落している視点・ターゲットがあることが判明した。



OSAKA SKY VISTA



大阪ダックツアー



エース JTB こてこて号

それは「高齢化への対応」であった。

- ・日本人の高齢化はますます進行している。

2014年（平成26年）高齢者人口3,296万人。高齢化率（65歳以上）25.9%（4人

- に1人)と過去最高になった。⇒2035年(平成47年) 33.4%(3人に1人)へ
- ・団塊の世代(1947~1949年生)がすべて高齢者・年金世代へ。2014年(平成26年)団塊の世代以上(65才以上)は641万人、高齢者の5人に1人を占める。
- ・急増している外国人観光客対策も必要だが、高齢者・年金世代をターゲットにしないでなければならない。

高齢者、特に団塊の世代のニーズは、

- ・国内旅行のニーズは高い。今後5年くらいでお金をかけたいことでは、①旅行、②健康維持、③子供や孫への支援。・海外旅行より年1回以上国内旅行のニーズ有。(2013年3月 JTB 総合研究所調査)
- ・国内旅行の目的では、①温泉・リゾート、②観光(自然)、③観光(歴史的建造物など)、④仲間と楽しむ、⑤体験(グルメ、買物)(2007年5月 NTT コムリサーチ)

今後必要な方向性は・・・

<高齢者を大阪に呼び込もう>

- ・高齢者のビギナーでも気軽に観光できる定期観光バス
- ・高齢者のニーズにあった観光コース

<必要なのは「お・も・て・な・し」の心>

- ・「自分で好きなように、周遊パスを使って公共交通機関と徒歩で観光スポットを回れ」は、若い元気な人が対象である。高齢者には、観光に回りやすい行き届いた気配りでインフラ整備が必要。

⇒ 高齢者をターゲットに整備をすれば、日本人の他の年齢層や、外国人の個人旅行客も呼び込めるのではないか。

高齢者も利用しやすい定期観光バス運行の前提条件

- ・発着場所・・・JR大阪駅またはJR新大阪駅
- ・バス停・・・駅に近くわかりやすい場所、わかりやすい誘導表示も必要
観光案内所でもきちんとPR
- ・使用車両・・・ノンステップバス(高齢者が乗降しやすい)
屋根や窓はオープンでない。小型バスやマイクロバスも活用
- ・乗降条件・・・下車観光あるいは乗降自由
- ・ガイドつき、あるいは自動音声ガイドシステム【外国語(英中韓など)にも対応】

④ 高齢者向け観光コースの条件とは

1. 高齢者ビギナーが対象⇒大阪らしい、大阪しかないスポット
2. 観光の4要素を備える⇒見る、食べる、遊ぶ、買う
3. 1か所の滞在時間は短く⇒じっくり滞在型でなく、エッセンスを味わってもらう
4. コースのコンセプト・テーマが必要⇒新しいもの、伝統的なものを
ゴチャマゼにするのではなく、わかりやすいコンセプト・テーマが必要

<定期観光バスコースの提案Ⅰ ①>

- ・若者の手軽に低料金で観光したいニーズに答えるコース
- ・大阪名所のラッピングバス、乗降自由、1周45分、料金は210円（市バスと同じ）
- ・地下鉄も利用できる1日乗車券「エンジョイエコカード」「周遊パス」も利用可に
- ・運行日は、土・日・祝。運行間隔は、シーズン15分／シーズン外30分

① 定番名所をめぐるループバス

JR大阪駅⇒大阪城⇒あべのハルカス⇒通天閣・新世界⇒道頓堀
⇒空中庭園展望台（梅田スカイビル）⇒JR大阪駅

<定期観光バスコースの提案Ⅱ ②～⑥>

- ・高齢者の観光ニーズにも応えるコース（自然、歴史的建造物、グルメ・買物）
- ・半日コース（3～4時間）、ボランティアガイド同乗、または自動音声ガイド
- ・料金は一律1,000円。追加料金で「大阪あそ歩」等のまち歩きと組み合わせも可
- ・運行日は、原則シーズンの土・日・祝のみ

② 水都大阪の川と橋をめぐる

JR大阪駅⇒大阪城⇒大阪城港⇒【船移動】八軒家浜船着場⇒道頓堀（太左衛門橋船着場）⇒千本松大橋（めがね橋）⇒なみはや大橋（全長1,740m）⇒港大橋（日本最長のトラス橋）⇒JR大阪駅（道頓堀以降のコースは船の運航時期のみ追加）

③ 大阪の歴史をめぐる

JR大阪駅⇒大阪天満宮⇒大阪城⇒四天王寺⇒住吉大社⇒JR大阪駅

④ レトロな「大大阪」をめぐる

JR大阪駅 ⇒（日銀大阪支店、大阪ガスビル）⇒綿業会館⇒大阪倶楽部⇒芝川ビル
⇒生駒ビル⇒（小西家住宅）⇒大阪市中央公会堂⇒JR大阪駅

⑤ なにわ庶民の市場・商店街をめぐる Ⅰ

JR大阪駅⇒天神橋筋商店街 ⇒空堀商店街 ⇒千日前道具屋筋商店街⇒黒門市場
⇒JR大阪駅

⑥ なにわ庶民の市場・商店街をめぐる Ⅱ

JR大阪駅 ⇒福島聖天通商店街（福島聖天）⇒大阪鶴橋市場・御幸通り（生野コリアタウン）⇒サンクス平尾（リトル沖縄）⇒JR大阪駅

※ルートに組み入れる商店街は、都度変更可能、100円商店街との組み合わせも可能

<奈良市・堺市で新しいループバスが登場>

- ・奈良「ぐるっとバス」2014年（平成26年）6月から、
- ・「堺まち旅ループ」バス 2015年（平成27年）3月から
- ・京都市では、2005年（平成17年）から「洛バス」を運行。



<2020年の東京オリンピックに向け、大阪市内に、高齢者にも、

外国人観光客にも、わかりやすく、気軽に利用できる、定期観光バスの復活を>

堺まち旅ループ